

「紅梅の 色にじませて 春の雪」

この句は、2月に開催した文化講演会の講師藤原正彦さんが、父君故新田次郎先生の残された一句を色紙に書いてくださったものです。講演の当日がご命日とのことでした。

さて、白川の里もマイナス10度という厳しい冬から、梅花香る春になりつつあります。とは言え、まだまだ寒さが戻ったり三寒四温と繰り返しです。山が在所は桜も梅も桃もツツジも椿も春の花はほとんど同時に咲きます。特に、コブシの花の白とツツジの花のピンクを織り交ぜた風景は言葉に言い表せない華やかさです。是非見て下さい。

町づくりの目標は、何よりも町民自身の生活を豊かにすることだと考えます。これは経済的ばかりでなく、文化的にも社会的にも豊かになることです。そして宝物（地域資源）を活かすには、住民が地域を自治的に担う主体にならなければ、目的は達成できません。「誰かがやってくれるだろう」ではなく、住民自らが自分のこととして関わらなければ、意味がありません。それをじっくり考える新年度としたいと思います。

平成27年3月1日

横 家 敏 昭



冬と春の季節を分ける節分ですが、白川町では、まだまだ寒い毎日が続きます。私の住まいする所は、標高 600m 余、気温マイナス 10 度くらいに下がる日があります。そんな中、古くから各々の家で節分行事が受け継がれています。我が家では、家の表の屋根に長い竹竿に竹籠を吊るし立てかけます。玄関や裏口には鯛の頭と柵の枝、鬼の絵等を書いた絵札を小棒に刺し、魔除けとして飾ります。その後、小宴を催します。歳の数だけ、炒った豆をたべます。

この時期、野山には、露の臺が頭を出し、河原のネコヤナギが銀芽をふくらませます。そんな昔と変わらない、懐かしいふるさとが残っています。

古の中国の歌人、陶淵明は帰去来辞という有名な漢詩を残していますので現代語訳を紹介します。

さあ故郷へ帰ろう

故郷の田園は今や荒れ果てようとしている。どうして帰らずにいられよう。今までは生活のために心を押し殺してきたが、もうくよくよしていられない。今までの間違いだったのだ。これから正しい道に戻ればいい。まだ取り返しのつかないほど大きく道はずれたわけではない。やりなおせる。今の自分こそ正しく、昨日までの自分は間違いだったのだ。（以下省略）

今もいつまでも、故郷は皆様の帰りを心待ちにしております。ぜひ友人知人を伴って帰郷してみてください。新しい発見を期待しております。

平成 27 年 2 月 1 日

横 家 敏 昭



あけましておめでとうございます。新玉の未年が良き年であることをご祈念申し上げます。

作家の童門冬二さんが、「江戸時代の各藩は財政危機に面していた。そこで藩政改革に役立つ人材の養成が急務ということで、藩校の創立がすすんだ。それも即効を求めていた。そうなる、その考えをそのまま実行すれば、単なるソロバン勘定に終わってしまう。藩当局は、赤字克服のために役立つような教えが欲しいと考える。これは江戸時代を通じて藩当局の切実な考え方だ。しかし、向学心の強い藩主は違った。ソロバン勘定にばかりに夢中になるような役人は、結果として民を苦しめると考える。どうすれば民の苦しみを和らげることができるかという方策を立てることが大切だ。」と説いています。

また、明治初年、日本資本主義の父渋沢栄一は、論語とソロバンを一致させようとしています。ソロバン勘定ばかりに熱中していると、いつか人の道に反することを起こしかねないと警告しています。

ダーウインは、生き残るのは、種の中で最も強いものではない、種の中で最も知力の優れたものでもない。生き残るのは、最も変化に適応出来るものであるとしています。

今年は羊年、かわいい子羊に変身しようかな。

平成27年1月1日

横 家 敏 昭



「北風枯林に騒ぎ遠山蒼茫として暮れゆく」の言葉どおり寒い冬の到来です。町内では、迎春の準備におわれています。古くからの慣習がそれぞれの地区、家に受け継がれ、今年一年に感謝する行事も多くあります。

人間には、血脈と同時に法脈と言うものがあると…血脈とは血液を継がせる、法脈とは心、精神、魂を伝承するということであると教えられました。年末年始の伝統行事はそうした意味があるのではないのでしょうか。白川町には、まだまだ良き風習が根強く残っています。それを大切に後世に伝えていきたいものです。

今、白川町に100歳以上の方が12名いらっしゃいます。その数字は、全国平均の4倍で、全国的にもすばらしい数字です。しかも99歳の方も12名いらっしゃいます。白川町の宝物です。100歳の知恵も伝えます。

平成26年12月1日

横 家 敏 昭



雪化粧の茶園

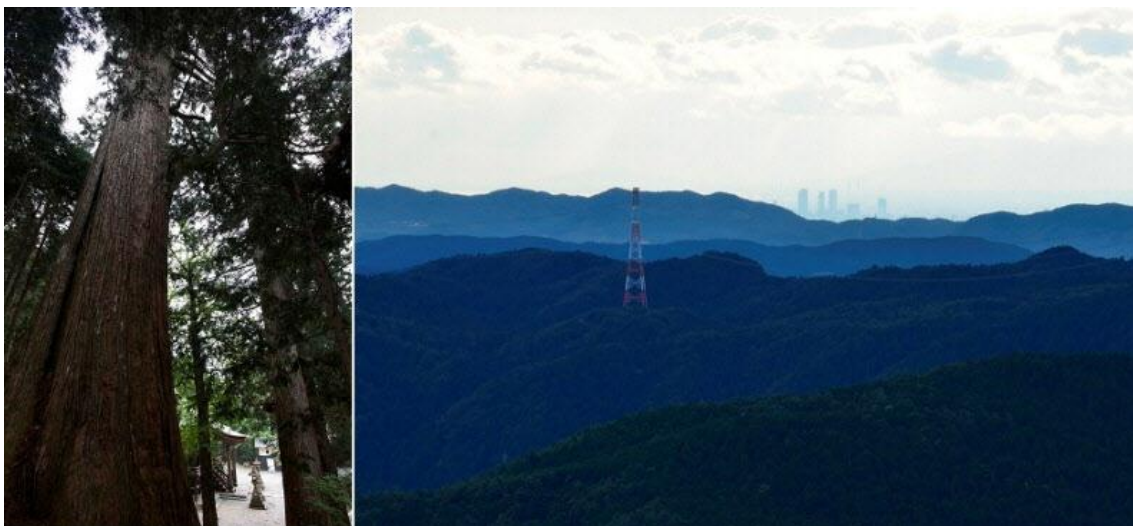
野山は一気に赤、黄、橙と色を染めてまいりました。我が町の最高所は 1200 メートル余。順々に山の麓へと秋は深まります。町内の高い山に登ると、南に伊勢湾、北東に御嶽山が手に取るように望めます。噴気上がる御嶽を見るとき、人間の営みの無情と儚さが煙りのように心の中に広がっていきます。犠牲になられた方々に心よりお悔やみ申し上げます。

町の山頂に大山白山神社（水戸野）、佐久良太神社（黒川）2カ所に社が祭られています。ともに養老年間と言いますから、今から 1260 年も前にこの地に勧請されたという長い歴史を有します。今はいずれにも車で行くことができます。大山白山神社には、国の天然記念物指定の大杉をはじめ、樹齢千年、数百年の老杉が 100 本以上並立しています。その神社の秋季大祭が 11 月 23 日に毎年執り行われ、多くの老若男女で賑わいます。そのお宮からの御嶽、乗鞍、白山、名古屋、伊勢湾の眺めと紅葉は是非おすすめいたします。

11 月は町内各地で文化的催しが開催されます。ご来場をお待ちしております。

平成 26 年 11 月 1 日

横 家 敏 昭



大山白山神社と老杉（左）、町内の山頂から名古屋駅周辺の高層ビル群をのぞむ（右）

秋真っ盛りの白川町。今年も豊作に感謝するお祭りが各地で催されています。野菜村チャオ、道の駅には季節の農林産物がところ狭しと並びます。

この時期、私が子どもの頃には、山に入り浸りでした。キノコをはじめ、あけびなど山の幸は豊富でした。遊びは、鳥もちで、じんがらと言う野鳥を捕らえることでした。そして、それを飼い慣らし、鳴き声を競ったものでした。また、鳥家と呼ばれるところへ行く楽しみもありました。先日、東白川村（本町の隣村）出身の映画監督今井友樹さんがドキュメンタリー映画「鳥の道を越えて」を制作され、試写を拝見しました。昔の鳥家のことが紹介され、感慨深いものがありました。

水と空気が生まれる町白川には、昔ながらの自然と人々の営みが今なお息づいております。鮎はこれから海に下ります、そして来春には稚鮎が川をのぼります。懐かしいふるさとに戻ってきます。

平成26年10月1日

横家敏昭



秋風とともに野山の草木も、心なしか変化が感じられます。

異常気象が異常でなくなるほど、恒常化してきた地球規模での気候変化に、不安を覚えるものです。国内でも大きな気象災害が発生し、被災者の方々に心からお見舞い申し上げます。住民の安心、安全を守るのが行政の一番大切な任務です。しかし、現実災害に直面し、行政の力の限界も痛感いたすものです。実りの秋でもあります、一方で風水害の起こりやすい時期でもあります。日頃の備えが大切で、「まさか自分の家は大丈夫」などということは決してありません。風景の良いところほど自然災害も多いところなのです。

さて、白川町には旧付知町から八百津町に通じる丈右衛門新道という山道があります。これは明治6年から10年にかけて、旧付知町の豪商牧野丈右衛門が私財をなげうって開設した全長27.5キロメートル、道幅3.9メートルの馬車道で、恵北地域で産する木炭、茶、板子、木、紙などを八百津の川港へ、そして生活物資である塩、藍、油、干魚、呉服などを反対に運んだ有料道路だったと聞き及んでおります。今も旧街道脇には、茶店や旅籠の跡もあり、トレッキングコースとして整備しようという地元の有志の皆さんが活動を始めています。是非参加してみてください。先人の偉業を訪ねる白川町の宝物探しを広く募集しています。

収穫の秋白川町、美味しいものいっぱいでお待ちしています。

平成26年9月1日

横 家 敏 昭



8月の白川町は、梅雨明けとともに鮎かけも最高潮、連日釣り人で賑わっています。また、夏休みに入り、町内の佐見川やクオーレの里のキャンプ場は、水辺を求めて多くのお客さんがいらっしやいます。源流の里の清流で涼を得ませんか。

この時期、町内各地域で夏祭りが開催されます。山間に響き渡る打ち上げ花火は、その音と光で観客を魅了します。都会では味わうことができない体験です。ふるさとを離れ、久しぶりに里帰りを楽しまれる皆さん、どうぞごゆっくりふるさとをかみしめてください。

生まれて良かった白川町、住んで良かった白川町を目指し、今町内で地域の宝物探しをお願いしています。自慢できる歴史、文化、物産などを後世へ、また多くの白川町を愛してくださる皆様にお伝えしていきたいものです。

この夏、暑さに負けずお体ご自愛ください。

平成26年8月1日

横 家 敏 昭



7月の白川町は朴葉の香り一段と増し、朴葉寿司がさらに美味しい季節です。また、清流白川で釣れた鮎は、味、香りとも天下一です。ぜひご賞味ください。

今、白川町は「みんなでやろまいか」をキャッチフレーズに町民全員での町づくり、地域づくりを進めています。町外から移住されます方も、お客様ではなく町づくりの同志として、参加していただきたく思います。

標高 180mから 1200m、広さは名古屋市より少し狭いくらいの広大な山間地です。標高 1000m地域からは伊勢湾が一望、その夜景は値千金です。映画「ウッドジョブ」の世界そのものの風景です。生活もまさに映画と同じです。みなさんを映画の世界へ誘います。

また、白川町は木造建築請負件数が日本有数で、匠のまちでもあります。桧の香り高い体験型モデル住宅で語りませんか。

平成26年7月1日

横 家 敏 昭



6月の白川町は、飛騨川とその支流、白川、赤川、黒川、佐見川の岩肌にへばりつくように咲く「岩ツツジ」が満開になります。このツツジは、どんな洪水にも流されることなく、毎年、赤い美しい花が人々の心を癒してくれます。新茶の白川茶を一杯いただきながら、ゆっくりとした時の流れをかみしめてみてはいかがでしょうか。

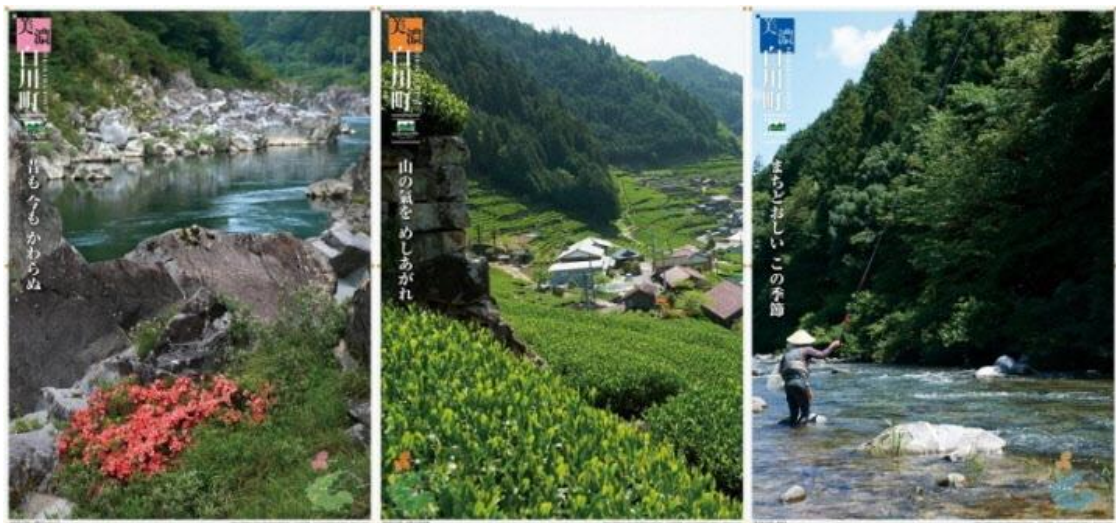
また、この清流では、6月14日から鮎漁が解禁となり、多くの釣り人で賑わいます。

6月5日は、白川では1カ月遅れて節句を祝います。ショウブとヨモギの葉を軒（のき）に吊るし、風呂にも入れて子どもの成長を願います。カリヤスでチマキを、柏葉で柏餅を作ってお祝いしたものです。朴の葉で作る家庭もあるようです。いずれにしても、古き良き習慣は大切に後世にも伝えたいものです。

今年の白川町の観光ポスターができました。7種あり、白川町の宝物が描かれています。

平成26年6月2日

横 家 敏 昭



新緑により深みが増した白川町です。もうすぐ川辺には岩ツツジの赤い花が咲き誇ります。

特産白川茶の新茶の時期となり、今年も味、香りとも優れたお茶を提供させていただけるようになりました。ぜひお試しください。

星空の下、水と空気が生まれる町・美濃白川。谷川の水辺も良いですが、山頂から眺める名古屋市の夜景は値千金です。

そんな白川町に移り住みませんか。新規就農、別荘などお待ちいたしております。

平成26年5月1日

横家敏昭

